

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームおいでませ		
所在地	山口市大内三堀83-2-2		
電話番号	083-925-3786	事業所番号	3570300628
法人名	有限会社 タカノホーム・スイート		

訪問調査日	平成 20 年 4 月 18 日	評価確定日	平成 20 年 7 月 18 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	6 人
職員数	9 人	常勤 4 人 非常勤 5 人 (常勤換算 7 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 30,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額	21,000 円		
	内訳	光熱水費:11,000円 管理費:10,000円		

(4) 利用者の概要 (4月16日現在)

利用者数	6 名	男性 1 名	女性 5 名	
	要介護 1	0	要介護 4	1
	要介護 2	1	要介護 5	1
	要介護 3	3	要支援 2	0
年齢	平均 90.5 歳	最低 86 歳	最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 柴田医院 おさばクリニック 歯科 長崎歯科医院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

認知症になっても今までどおり普通の暮らしが送れるよう職員が一丸となって支援しております。地域の清掃除や草刈り等の行事への参加や近所の人と一緒に避難訓練を行うなど、グループホームが地域と良好な関係に保たれていることが伺われます。職員の内部研修や勉強会はもちろんのこと、専門的な外部研修、同業者との連絡会や交流会、学習会等への参加の機会がとて多いことは、運営者の人材育成への理解が深く、職員全体のサービスの質の向上ともなっています。

(特徴的な取組等)

「普通の場所で、普通の家で、普通の暮らしができること」を理念とされ、少人数で家庭的な雰囲気を持ったグループホームです。職員は、人生の先輩としての尊厳を忘れないよう利用者に接することを心がけ、利用者の自己決定を大切にした支援が行われています。緊急時や不安なとき、休日や時間外でも快く受診してもらえる安心の医療体制が整えられています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議で報告をし、職員全員で改善課題について検討され、運営推進会議のメンバーの中に、近所の方の参加を得られました。緊急時や事故防止の対策では、職員全員で、ヒヤリはっとの学習や、実際に起こりうる事故防止の訓練を行うなど、地域の方を巻き込んでの対策に努力されています。

(今回の自己評価の取組状況)

自己評価書を、職員全員に配布し、それぞれ記入してもらい、その結果を皆で持ち寄り話し合い、改善課題について検討しています。すぐに改善できることは直ちに改善し、その他については、職員全員で自覚をし、改善への努力がされています。

(運営推進会議の取組状況)

運営推進会議は、自治会長、民生委員、包括支援センター、山口市認知症家族の会会長、近所の人、家族、職員で構成され、2ヶ月に1回開催しています。利用者の状況やサービス内容、自己評価や外部評価で上がった具体的な改善課題等、また、地域密着型としてのホームあり方などについて意見や助言をもらい、サービスの質の向上に努めておられます。

(家族との連携状況)

毎月、担当職員からのメッセージを写真や、ホーム便り、金銭出納帳と一緒に家族に送付されています。ホーム便り「おいでませ」には、利用者のエピソードや季節の行事、異動のあった職員の紹介などが詳しく載せられ、家族にとっての楽しみの一つとなっています。家族の訪問時には、お茶を接待しながら会話をすることで、意見や要望を聞くようにしておられます。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、地域の清掃除や草刈り、地区運動会等の行事にも積極的に参加しています。近所の人とは散歩のときなどに声をかけあう機会も多くなり、運営推進会議への参加やホームの避難訓練などに協力してもらうなど、良好な関係が築かれています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「人間としての尊厳、自己決定を大切に、住み慣れた環境でその人らしく暮らせるよう支援すること」「普通の場所で普通の家で普通の暮らしを支援すること」を定めた事業所独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	運営理念を歌にし、「おいでませ」のテーマソングとして、利用者と一緒に歌っている。事務所に大きく掲示し、ミーティング等で確認し、実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、溝掃除、草刈り、運動会に参加している。近所の人とは散歩のときなどに声をかけあう機会も多くなり、ホームの避難訓練などに協力をしてもらっている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、職員共に、自己評価や外部評価を実施することがサービスの改善につながることを理解している。今回は自己評価書を職員全員に配布、記入してもらい後日結果を持ち寄って話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催し、外部の人の目を通して、ホームのサービス内容や具体的な改善課題について意見や助言等もらい、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	山口市介護保険連絡会等、関連の会議へ参加し、情報交換を行っているほか、日常の相談にも応じてもらっている。また今年度は、「認知症予防講座」の事業を委託している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の訪問時や電話での報告のほか、毎月1回、担当職員からのメッセージを写真や、ホーム便り、金銭出納帳と一緒に送付している。ホーム便り「おいでませ」には、利用者のエピソードや季節の行事、異動のあった職員の紹介などが詳しく載せてある。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族の訪問時に、お茶の接待をしながら、何気ない会話の中から意見や要望などを聞くようにしている。苦情相談窓口及び担当者、苦情解決責任者、外部機関、第三者委員は明示し、苦情相談のポスターや苦情用紙が備え付けてある。	
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤4名、非常勤5名の職員体制で、利用者の状況を見ながら職員で話し合い、急な休みや夜勤の交代などにも対応できる柔軟な勤務シフトをしいている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新しい職員の採用時には、一定の「試行期間」を設け、利用者との関係性を大事にしながら、出来る限り利用者のダメージを少なくするよう配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新しい職員は、早いうちに新人向けの研修に参加し、現任職員は希望を聞きながら、適任者に外部研修を受講してもらっている。研修終了後には、ミーティング等においてその研修報告を行い、情報の共有をしている。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や山口ブロック研修会などに参加し、職員同士の交流や学習会の持ち回りなど積極的に情報交換を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、家族と一緒にホームを体験してもらっている。職員や他の利用者の方と一緒に過ごすなかで、普通の暮らしを体感してもらい、本人が納得した上でサービスの利用を進めている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>職員は、人生の先輩としての尊厳を忘れないよう利用者に接することを気をつけている。また、日頃から、利用者に対して「お願いする」という態度を極力少なくし、利用者の表情を見ながら、一緒に過ごすよう努めている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者の思いや希望は、日々の何気ない会話やかかわりの中で見極め、把握するよう努めている。月2回のミーティング等でも、利用者の意向をモニタリングし、一人ひとりに合った支援が出来るよう心がけている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>職員全員でケアカンファレンスを行い、利用者の要望、毎月行っている主治医の往診時の意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら介護計画を作成している。利用者の出来ないことではなく、出来ることに注目して検討を行っている。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月ごとに介護計画を見直しているほか、サービス状況等のモニタリングを毎月2回ミーティングの中で行っている。入居者の変化が生じたり見直しが必要な場合は随時検討し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族が対応できない場合の通院介助や外出などの付き添いなど本人の状況に応じた対応を心がけている。また、気晴らしのための旅行などの支援も行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者、家族の全員に納得してもらった上で、現在の主治医にかかっている。毎月1回の往診のほか、緊急時や、不安なとき、休日や時間外でも快く受診が出来るよう協力してもらっている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	利用者の重度化に対しては、家族や主治医と何度も話し合い、連絡を取りながら方針を共有し、家族や利用者が安心感を持って過ごすことが出来るよう支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者に対する尊敬の念や言葉遣いに関することは毎日のミーティングでの注意や、申送りノートに記入するなど意識の向上に努めている。利用者の記録等は、人目に触れないよう細心の注意を払っている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、職員の都合を押し付けるのではなく、本人のリズムやペースで過ごせるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材は業者をお願いしているが、利用者と職員と一緒に準備をしたり、盛り付けて楽しそうに食事をし、片付けなど役割分担をしながら楽しい時間を過ごしている。誕生日や、特別な日には利用者の好みのものを用意している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は基本的には一日おきで、時間は午後2時半から5時までになっているが、希望があれば毎日でも入浴でき、夜でも対応できるようにしている。入浴日には、利用者の希望する湯温や湯量の調整など時間を気にすることなく入浴を楽しめるよう支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	年々重度化していくなかで、利用者一人ひとりの出来ることを見つけて、日々の活力につながる支援をしている。干し柿、らっきょう、ハブ茶、芋の収穫などの手作り作業や生け花、縫い物など、一人ひとりにそった場面づくりを支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気のよい日には出来るだけ近くの公園や川沿いを散歩したり、スーパーには安売りの日に買物に行ったり、利用者の体調がよければ花見を兼ねてのドライブ、ワラビなどの山菜採りに行くなど外出の支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束については内部研修で学習し、職員全員で理解を深めており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックについてはミーティングで職員同士お互いに注意し合うなど、日頃から気をつけている。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、鍵をかけない自由な暮らしに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルがあり、日常生活で起こりうる事故に対する学習も行っている。また、ヒヤリはつとを一言でまとめて覚えやすいように工夫するなど、利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を話し合っている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルがあり、職員全員で急変時に起こりうる事故への対応について、体験学習を行っている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回避難訓練等を行っており、近所の住民にもその都度協力をお願いしている。ホームの外壁には近所に聞こえるよう緊急ベルも取り付けられ、非常時に備えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の服薬情報はファイル化され、職員はきちんと把握している。服薬については、夜勤職員が準備し、日勤職員が再度確認をし、手渡しをしている。必要な情報は主治医にフィードバックしている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	食後にはうがい、夜は歯磨きを実施しており、利用者の状態に応じた支援をしている。歯ブラシや義歯については、マニュアルにしたがって清掃、消毒、保管している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取状況はきちんと把握され、栄養バランスに配慮された食事が提供されており、水分補給にも気をつけている。3ヶ月に1回の血液検査や体重測定などで栄養状態をチェックしており、主治医とも相談している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルがあり、予防や対応についての取り決めに従って、早期発見や早期対応に努めている。職員は内部研修やミーティング等で感染予防の学習も行っており、予防のための手洗い、うがいの励行を行っている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせた生け花や飾りのある共用空間は、家庭的で温かな居心地の良いたたずまいとなっている。仲の良い利用者同士が話しあったり出来るよう、二人がけのソファやいすが用意されている。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に、持ち込むものについては家族と良く話し合いベッド、テレビ、机、タンスなど利用者の使い慣れたもの好みのものが置かれ、安心感を持って過ごせるよう心がけている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム おいでませ
所在地	山口県山口市大内御堀832-2
電話番号	083-925-3786
開設年月日	平成 14 年 7 月 17 日

【サービスの特徴】

普通の場所で・普通の家で・普通の暮らし（プライドを傷つけない援助、家庭的な生活の援助、自己決定を大切にしたい援助）

【実施ユニットの概要】（3月5日現在）

ユニットの名称	グループホーム おいでませ			
ユニットの定員	6 名			
ユニットの 利用者数	6 名	男性 1 名	女性 5 名	
	要介護 1	0	要介護 4	1
	要介護 2	1	要介護 5	1
	要介護 3	3	要支援 2	
年齢構成	平均 90.5 歳	最低 86 歳	最高 96 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に自己評価表を渡し、それぞれ記入をする。それを元の後日、それぞれが改善が必要と感じたことについて、職員全員で話し合い、直ちに改善できること(特にハード面)は直ちに改善を行い、その他の改善点は職員全員が自覚をし、改善に努めている。
評価確定日	平成 20 年 3 月 20 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		人間としての尊厳と自己決定を大切に、すみなれた環境での生活の支援、普通の場所で普通の家で普通の暮らしを支援することを理念としている。
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		人間(年長者)としての尊厳を大切にした声掛けと思われぬ事が時に見られるので気をつけたい。
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		全職員が同じ気持ちでお世話ができる様に声を掛け合えるようになる。
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		ホーム便りの発行や運営推進会議で理念は伝えている。普通の家での暮らしの良さは理解されている。
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		道路から見える場所で過ごす時間を多くし、道行く人に気軽に声掛けし立ち寄りしてもらえるようにしたい。
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		老人会に行っていないので、今後話しに行ってみる。
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		ご近所の高齢者の状況の把握をしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員は全員で評価を行い、評価の内容を理解し、入居者の方々に安心して暮らしていただけるホームをまた、近所の方々に気軽に立ち寄ってもらえるホーム目指して努力している。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	会議では貴重なご意見を頂くこともあり大変幸せております。今後は、堅苦しくない会議にもっと気軽に誰でも来てもらえる会議にしていきたいと考えている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	山口介護サービス部会に加入し、例会に参加、市からの情報を得たり、必要な時には相談もしている。20年後は介護予防事業である認知症予防講座の委託を引き受ける申し込みをしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	代表者は権利擁護の研修会に参加し、勉強している。以前入居者に、権利擁護や成年後見制度を利用している人がおられた。職員にも説明している。	
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待について話し合いはしているし、通所介護利用者の様子には特に気を付けている。介護者の疲れの軽減にも気を配っている。	
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	おいでませ便りや、契約書の入ったファイルを見てもらいながらゆっくり時間をかけて説明し納得してもらっている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見箱を設置したり、毎月担当がお便りを書き要望を聞く機会を作っている。面会の時にも声掛けを行なっている。	
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月写真入でお便りを担当が書き、請求書や金銭出納帳と一緒に送っている。職員の入替わりはおいでませ便りで紹介しているし、運営推進会議でも報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	記録を見ながらお話をすることもあり、希望があればいつでも開示は可能である。		
18 (8) 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情は宝といわれているので声掛けは常時しているが、なかなか聞けていない。ホームにポスターや苦情申したて用紙も置いてあるし第3者として認知症の家族の会長にも引き受けをお願いしてある。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	小さなホームなので日常的に運営に関することも職員と話し合い、安定した運営が出きる様に努めている。		
20 (9) 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員の生活リズムに留意した勤務シフトがなされているし、職員数も多めにしており、急な病院付き添いや状況に応じた対応が出来る。		
21 (10) 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職は最小限にしたいが、それぞれ都合があり大変である。新しく職員を入れる場合入居者の反応を第一に決めている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11) 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	行政の行なう研修会や、外部の研修会には、希望を聞きまた、必要な研修会には適任者に参加してもらっている。計画は立てていないが新しい職員には、新人職員研修から始まり、順番に研修に参加するようにしている。		
23 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	男性職員はいないが、いろんな年齢や性格の職員がいてそれぞれの考え方があり変化があって良いと思う。		
24 (12) 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	経営者同士連絡を取り合ったり、地域別にグループホームが集まり、学習会を持ち回りするなど質の向上に積極的に取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		気軽に相談できる声掛けの工夫をしていきたい。
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている。		
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族とは面会の時や行事の時に職員は充分コミュニケーションをとっている。毎月写真入のお手紙を出し喜んでいただいている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	対応の仕方や、声掛けの方法など一緒に考えて実行していただいている。		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や外出は自由に、理美容院は以前利用されていた所を家族と出かけ利用されている方もある。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士気持ちよく過せる様に座る位置を考えたり、職員が間に入り良い雰囲気作りに心がけている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後もご家族から様子を知らせていただいたり、こちらから伺ったり、面会やお見舞いに行ったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員には、入居者や相手の立場になって考えて対応するように言っているし、職員も気をつけて実行しているが、全員が出来ているとは言い難い、そのような時には注意をしている。		考えた介護ができる様に職員全員が気をつけ注意し合うようにする。
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家族より情報を提供していただき、入居後も家族や本人から情報を収集しているし、日常会話の中から得られた情報は記録し職員全員で共有している。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人一人の状態に合わせてレクリエーション、休憩、食事、入浴等配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	全職員でカンファレンスを行い、今後の方針を家族に確認したり、本人の希望を聞いたり、医師の指導を受けたりして、入居者も家族も安心して過せるような計画を立てている。	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に変化が生じた場合、その都度本人にとって一番良い援助方法が出る様に、本人、家族、主治医、職員で話し合いながら計画を見直している。	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	夜勤の職員は、夜勤帯に記録を読み、自分の出勤以外の日の様子も知るようにしている。気づきなどあれば担当者に報告し良いお世話を実践するように努力している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通所介護利用者の家族の介護疲れの解消になるようにケアプランを持ちかけたり、介護者にねぎらいの声掛けを多くするなど喜ばれている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	駐在所・学校・保育園・ボランティアなど積極的に職員が訪問しているが、定期的な交流にはいたっていない。ボランティアは定期的に来ていただいている。	引き続き訪問し交流の機会を作っていくたい。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	積極的に声掛けし、相談や見学も受け入れている。勉強会も受け入れている。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必用に応じて話し合い、相談しながら他のサービスの利用も考えている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	ミーティングで職員に注意し意識の向上に努めている。休息・排泄・入浴・更衣等は、特にプライバシーを配慮し記録についても人目に触れないように気をつけている。	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	本人が理解できる人はもちろん、理解力が落ちている人には表情を見ながら分かりやすい声掛けなど工夫して支援している。	
58	<p>“できる力”を大切にした家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	家事(調理・配膳・洗濯物干し・たたみ)など入居者一人一人に合せて手伝っていただいている。入居者も何時も出来るとは限らないので出来ないときも声掛けは傷つけない声掛けをするようにしている。	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	食事の時間は大体決まっているが、その他の事は時間は自由にいただいている。でも何時も職員は心配りをして出来るだけ規則正しい生活が出る様に支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	それぞれ入居者の出来る範囲でしていただき、出来ないところを声掛けで行っている。理美容院へは行きつけの所へ家族や職員と一緒にいる。	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	嗜好を把握し、入居者と一緒に作ったり、片付けたりしている。職員も同じ時間・場所で同じ物を会話をしながら食べている。	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	好みのものが食事やおやつで食べられるようにしている。	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄表を付け、適時の誘導を行い、パット内にされることは出来るだけないようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居日を決めているが(一日おき)、入居者の希望や体調を一番に考えている。温度や、湯量、時間も好みに合わせゆくりくつろいで入浴できるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	昼寝や入床の時間など入居者に合わせて援助している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備や干し柿作り・生花、縫い物など個々の得意分野を生かして楽しみながらみんなで行っている。高齢になり認知症も進み得意分野も出来なくなってきた方が多くなったが、出来ることを見つけながら支援している。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日常的にお金を所持しておられる方は居られないが、買い物に行く時はお金を所持してもらい、支払いをしていただくなどしている。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	寒い・暑い期間は外出もなかなか出来ないが、買い物や、天気のよい日は散歩に行くなど支援している。ドライブにも出かけている。ウッドデッキにはいつでも出られるし、出て過されている。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	出かけることの意味を家族に伝え、時々家族と出かけられることがある。平均年齢91.5歳なので出来るだけたくさん思い出が出来る様に声掛けをしている。		
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をしたい手紙を出したいといわれる入居者は居られない。贈り物が届いた時など職員が電話をかけ、入居者にも話していただくようにしている。手紙は来るが出すことはされない。		
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に来ていただいているし、来られた時はお茶などだしゆっくり話していただいている。帰りには、また是非いらっしゃって下さいとも声掛けをしている。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	過去には親子で泊まっていられる方があったが、現在は希望者は居ない。希望されればいつでも対応はします。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		拘束の弊害を職員は理解しており、身体拘束もドラッグ拘束もしていない。
75 (28)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		鍵は夜間以外はかけていない。自由に出入り出来るが介護度が高くなり自由に外へいける方が居なくなってきた。職員は鍵をかける弊害を理解している。
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		監視ではなく見守りにて行っている。
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		危険な物品は入居者の目に付くところには置かないようにしている。特に夜間。
78 (29)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		マニュアルがあり訓練も行っている。
79 (30)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。		マニュアルがあり訓練も行っている。生活の中で意識喪失の場面や、救急車対応の場面がありその都度職員で反省会を行い、より良い対応方法を考え、次回に生かしている。
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		ヒヤリハットや事故は報告書を作りきちんと記録し、職員間で再発防止策や改善を直ちに行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	何時もきれいにしている。季節の花や壁画を季節に合せかえるなどしている。	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせて飾りを作ったり花を生けたりして、季節感が味わえるように工夫している。	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	あちこちに二人がけのソファや椅子を置き、好きな場所で気のあった人と過していただいている。	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	民家改修型なので入居者も違和感が無いと思われる。馴染みのものを持って来ておられる方もあるが、それらがあると落ち着ける人そうでない人とあり、それぞれに合わせて行っている。	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	暖めすぎず、冷やし過ぎないように出来るだけ自然に近い環境で季節感も味わいながら過していただいているし、換気や消臭、特に消臭には気を付けている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるよう工夫している。	手摺をつけたり段差を無くしたり、必要な場合は直ちに考えより安全なように改善している。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	分かり易いように表示をしたり、声掛けで混乱を防いでいる。	
97	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	訪問者も、入居者も自由に座れるように建物の前にベンチが置いてあるし、デッキには自由に出入り出来ソファで日向ぼっこをされる入居者もある。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	<input type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	<input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない